



超高齢化社会の到来により「在宅医療」のニーズがますます高まるなか、さくら薬局グループを展開するクラフト株式会社(本社東京都)では、薬剤師と管理栄養士が連携した在宅医療活動にも注力しています。八王子エリア在宅医療チームに所属する薬剤師の原義浩氏と管理栄養士の木浪くるみ氏に具体的な事例を交えてお聞きしました。

Discovery

薬剤師と管理栄養士の連携が在宅医療の質を向上

さくら薬局グループ(クラフト株式会社)

八王子エリア在宅医療チーム
薬剤師 原 義浩 氏

薬局支援部ヘルスケア推進課
管理栄養士 木浪 くるみ 氏

八王子エリア在宅医療チーム全員が認定資格保有者

——訪問薬剤管理指導を専門に担う在宅医療チームは2024年11月現在、10拠点にまで拡大しています。

原 在宅訪問に専念する薬剤師を配置した当社の「在宅医療チーム」は、少しでも多く在宅の依頼に応えるために、2021年に発足しました。より専門性の高い在宅業務を担い、またケアマネジャーら多職種との会合にエリア専任の薬剤師が参加することで、「その地域で顔の見える関係性」を強めています。

八王子エリア在宅医療チームは、2023年3月にスター

トしました。

現在、薬剤師2名と管理栄養士1名体制で、個人在宅を中心に約70名を受け持ち、訪問回数は月に150回程度です。当社には業界最多の21名の(2025年2月現在)在宅療養支援認定薬剤師が在籍していますが、八王子エリア在宅医療チームは2名とも認定薬剤師で、管理栄養士の木浪は在宅訪問管理栄養士に認定されています。在宅医療チームは、外来と業務を分担しているため時間の融通が利きます。より患者さんのニーズに合わせた訪問が可能となり、緩和ケアや無菌調剤などにも対応しやすい体制となっています。また、主治医による初回診療前の訪問や往診にも同行し、より詳しい診察情報を得ることで、在宅訪問指導のクオリティを上げることができました。

木浪 私は通院が困難な方のご自宅を訪問し、食生活や栄養に関する相談にのります。患者さんごとの状況を踏まえた調理方法やレシピの提案、退院後も入院中と同様の栄養管理の支援、ご家族や多職種への情報提供などを行っています。

原 薬剤師と管理栄養士が協働することで、より患者さんの生活に即した支援ができていると実感しています。

多職種からの信頼を得て在宅医療に貢献

——在宅訪問を始めて、反響はいかがでしょうか。

原 八王子エリア在宅医療チームが発足する前は、薬局を利用している患者さんからの依頼がほとんどでしたが、今では地域の多職種からの依頼が定期的に入るようになりました。また、薬剤師と管理栄養士とで訪問する薬局はほとんどないため、伺ったときの反応がとてもよいです。

協働して減薬に結びついた事例も

——具体的に成果があった事例はありますか。

原 降圧剤の服用が追加となった患者さんのカリウム値が悪化し、クレアチニン値も上昇した例です。カリウム値上昇の可能性があった薬剤と、心不全治療薬が高カリウム血症を増悪させるおそれがあったため、いずれも処方提案し服薬中止となりました。食事の面でも減塩とカリウムを控える必要がありましたが、認知機能の低下がみられていたため、管理栄養士が工夫してくれました。具体的には、大好きな刺身を召し上がる場合醤油は霧吹きですす、根菜類は煮こぼすなどのポイントをわかりやすく大きめのイラストにして、調理の際に目につくよう冷蔵庫に貼りました。ご本人のがんばりもあり、後日の血液検査ではカリウム値、クレアチニン値とも改善し血圧も落ち着きました。最終的には食事の改善や運動量の増加に伴い尿酸値も下がり、高尿酸血症の薬剤も中止となって減薬へと結びついた事例です。

木浪 人工透析の可能性を回避できた事例も経験しました。腎機能が低下している患者さんに半年間の栄養指導を実施し、主治医から塩分量やタンパク質量などについて指示をいただき、普段の食事を見直しました。eGFRが10.8と低く、人工透析への移行が懸念されていましたが、半年後には15.3まで上がり、人工透析を回避することができました。患者さん自身で食事管理も行い、友人と過ごす時間も多くなったと伺っています。

調理のポイントをまとめたイラスト事例〈カリウムを減らすポイント〉

調理前



細かく刻む



水にさらす
もしくは
茹でこぼす



流水で洗い流す

カリウムは水に溶けだしやすい



調理開始

薬局支援部
ヘルスケア推進課
管理栄養士
木浪 くるみ 氏



原 管理栄養士が在籍しているからこそ食事面からもアプローチして減薬につなげるなど、質の高い在宅医療を実現できるのは大きな強みです。薬剤師も栄養に関する説明はできますが、より専門的な栄養指導や患者さんごとに工夫されたレシピ提案が可能になって、管理栄養士の同行には助けられています。

活動の場を拡充して地域医療に貢献

——2027年までに20拠点に拡大予定と伺っています。原さん、木浪さんの今後の展望をお聞かせください。

原 在宅訪問は医療に関わる薬剤師が患者さんのためにできるアプローチの一つで、今後在宅医療が増えていく中で恩恵にあずかれない“在宅難民”が生まれないようにしなくては、と考えています。薬局に管理栄養士が在籍し、薬剤師と一緒に在宅訪問を行っているケースはまだ珍しいので、さらに認知度を上げていくとともに、在宅訪問で患者さんのQOLに貢献できるよう、今後も多職種と連携し、地域のためにも在宅医療に尽力していきたいと思っています。

木浪 薬局勤務の管理栄養士による在宅訪問は診療報酬の算定対象外という課題はありますが、訪問栄養指導が必要な患者さんは必ずいます。必要な患者さんに訪問栄養指導を届けられるよう活動の場を拡げていきたいです。また行政との連携を強化し、お子様から高齢の方まで、様々な方が相談しやすい環境をつくっていききたいと考えています。